

没後一三〇年

平福穂庵展

描いて
旅して
生きてゆく



2019年
11月16日[土] - 2020年
2月2日[日]

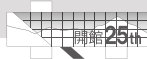
前期 | 2019年11月16日(土) - 12月15日(日)
後期 | 2019年12月17日(火) - 2020年2月2日(日)

- 展示替えのため2019年12月16日(月)は休場 ※6階コレクション展は観覧可能
- 休館日：2019年12月29日(日)～31日(火)、2020年1月14日(火)～23日(木)
- 開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

秋田県立近代美術館

Akita Museum of Modern Art

〒013-0064 秋田県横手市赤坂字富ヶ沢 62-46 (秋田ふるさと村内)
TEL | 0182-33-8855 FAX | 0182-33-8858 E-mail | akitamma@rnac.ne.jp
Twitter @akitamma Website <http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public.html>



芸術文化振興基金助成事業



平福穂庵《乞食図》(部分) 1880(明治13)年、当館蔵



平福穂庵《江口ノ君》(部分) 1887(明治20)年、当館寄託



平福穂庵《軍鶏》(部分) 1886(明治19)年、当館蔵

平福穂庵(1844-1890)は、角館(現・秋田県仙北市)の出身です。絵師になることを志して幕末の京都に遊学した穂庵は、維新後、地元の絵師として頭角をあらわし、のち上京し画家団体である東洋絵画会などで活躍しました。近代日本画の大家・平福百穂(1877-1933)の父としても知られます。

地方の絵師だった穂庵が日本画家として中央に進出できた背景には、全国的な公募展や美術雑誌の新設がありました。そしてその活躍を裏付けたのが、武者修行のように京都・北海道と旅をする中で磨かれた確かな画力や多彩な能力でした。本展では、没後130年の節目に、《乳虎》(1890年・第三回内国勧業博覧会出品作)等の代表作や初公開作品を展覧し、その魅力的な作品と人物像に迫ります。幕末明治の混沌の時代に、秋田の画家としていち早く近代の日本画表現を模索し、秋田の画業振興に貢献した穂庵。その足跡をどうぞお楽しみ下さい。

関連イベント

- 担当学芸員によるギャラリートーク(40分程度) ※要観覧券、申込不要
〔日 時〕 2019年11月30日(土)・2020年1月5日(日)
各日ともに14:00より
- 〔場 所〕 秋田県立近代美術館5階 展示室内

アクセス&MAP

- JRとバス JR 横手駅東口からバス「ふるさと村行き」で「ふるさと村」下車
- 自動車 秋田自動車道 横手インターより3分
※車いす対応駐車場がございます。ご利用の際は美術館にお電話ください。
- 高速バス 高速バス 湯沢・秋田線「横手インター入口」下車徒歩10分
※「横手インター入口」は、秋田行きは乗車のみ、湯沢行きは降車のみ。

秋田県立近代美術館 Akita Museum of Modern Art

〒013-0064 秋田県横手市赤坂字ヶヶ沢 62-46 (秋田ふるさと村内)
TEL | 0182-33-8855 FAX | 0182-33-8858 E-mail | akitamma@rnac.ne.jp

没後130年

平福穂庵展 2019年 11月16日[土] - 2020年 2月2日[日]

前期 | 2019年11月16日(土) - 12月15日(日)

後期 | 2019年12月17日(火) - 2020年2月2日(日)

展覧会詳細

- 開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休場日：〔展示替え〕 2019年12月16日(月)
※同時開催の6階コレクション展はご覧いただけます。
- 休館日：〔年末休館〕 2019年12月29日(日)～31日(火)
〔メンテナンス休館〕 2020年1月14日(火)～23日(木)
- 観覧料：一般500円、団体(20名以上)・シルバー450円
障害者手帳ご提示の方無料(介添1名まで無料)
大学生以下無料(要学生証提示)
- リピーター割引：本展、もしくは「若沖と京の美術展」の半券提示で50円引き ※他の割引と併用は不可

[主催] 秋田県立近代美術館

[後援] 横手市、横手市教育委員会、秋田魁新報社、河北新報社、朝日新聞秋田総局、毎日新聞秋田支局、読売新聞秋田支局、産経新聞秋田支局、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、エフエム秋田、横手かまくらFM、エフエムゆーとびあ、FMはなび
[助成] 芸術文化振興基金

